

デルマタン硫酸とは

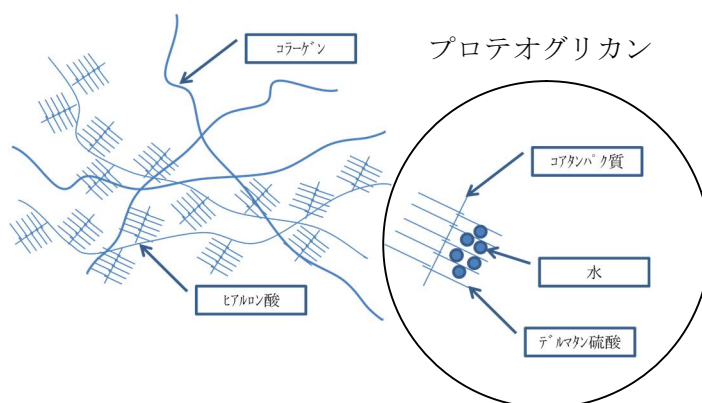
デルマタン硫酸は、ムコ多糖の一種で、別名**コンドロイチン硫酸B**とも呼ばれています。

| グリコサミノグリカン | アミノ酸 | uron酸 | 主な部位 |
|------------|---------------------|------------|-------------|
| ヒアルロン酸 | N-アセチル-D-グルコサミン | D-グルクロン酸 | 硝子体・皮膚・結合組織 |
| コンドロイチン硫酸A | N-アセチル-D-ガラクトサミン4硫酸 | D-グルクロン酸 | 軟骨 |
| コンドロイチン硫酸B | N-アセチル-D-ガラクトサミン4硫酸 | L-イズロン酸2硫酸 | 皮膚・結合組織 |
| コンドロイチン硫酸C | N-アセチル-D-ガラクトサミン6硫酸 | D-グルクロン酸 | 軟骨 |

デルマタン硫酸は、N-アセチル-D ガラクトサミン 4 硫酸と D-イズロン酸 2 硫酸の二糖を反復構造単位とする直鎖状の多糖類です。分子量の分布は、おおよそ 18,000~30,000 の間で、平均分子量は 26,000 と、吸収され易いムコ多糖と言えます。

デルマタン硫酸の名前は、ギリシャ語の **derma** (皮膚) に由来していることから分かるように、皮膚組織に多く存在している他、腱や心臓弁、動脈壁にも多く存在しています。

デルマタン硫酸の働き



プロテオグリカンは、コアタンパク質にムコ多糖の一種であるデルマタン硫酸等の糖鎖「グリコサミノグリカン鎖」が結合して出来ており、コラーゲンやヒアルロン酸といったマトリックスタンパク質と複合体を形成しています。

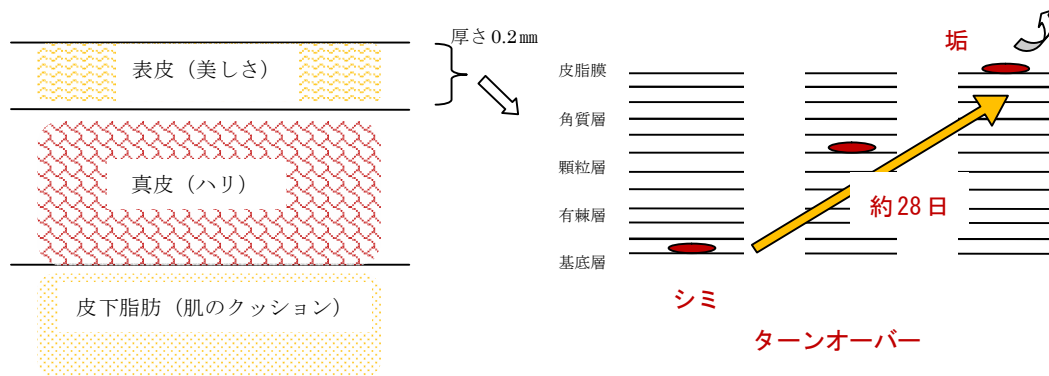
肌においては、真皮内部と表皮中に存在し、組織間の隙間を埋め、肌の密度を高め、皮膚細胞の弾力維持に役立っています。この真皮部分は典型的な結合組織で、その多糖成分は 70%がヒアルロン酸、25%がデルマタン硫酸から成っているとされています。

《保水力》

このグリコサミノグリカン鎖は、多数の硫酸基とカルボキシル基を持つため負に帯電しており、電気的な反発力で伸び、羽毛状に広がります。あわせて、糖の持つ水親和性により保水力が強く、ヒアルロン酸の働きを助けます。

→ 乾燥肌、肌荒れのケアや弾力の回復に

《ターンオーバー》



健康な皮膚は、約28日周期で表皮が新しく生まれ変わり、このサイクルをターンオーバーといいます。肌の新陳代謝が活発であれば、シミやくすみは、肌細胞が基底層で生まれ、古い細胞が角質へ押し出されて垢やフケとなって剥れ落ちる際、一緒に排出されるため残りません。しかし、この周期は加齢によって遅くなるため、徐々に角質が厚くなり、肌荒れやシワ、シミ、くすみが出来易くなります。

→ 皮膚組織の代謝を促進し、紫外線から肌の損傷や表皮肥厚などの予防に

目安摂取量

治験データはありませんが、年齢、体重、肌状態の個人差により、目安摂取量として50~200mg/日を推奨いたします。

成人が一日に必要なコンドロイチン硫酸の量は400mgと言われておりますが、中高年の体内では20mg程度しか合成出来ないと言われております。

デルマトン硫酸 DS50 の特徴と安全性

ヒトの皮膚組成に良く似たブタ由来のデルマトン硫酸を50%以上規格化しています。ムコ多糖類は加熱変性し易いため、当社では凍結乾燥を行っております。

化粧品用途として、デルマトン硫酸ナトリウム塩もご用意しております。

《安全な肥育条件》

オーストラリアでは、ステロイドの使用禁止、抗生物質の投薬期間制限等、ブタの肥育における薬剤投与は厳しく管理されています。また、投薬されたブタには屠利前に厳格な休薬期間が設けられている他、更に安全性を確保するため、検疫当局の無作為抽出による残留薬剤の検査が行われています。

《明確なトレーサビリティ》

当社のデルマトン硫酸 DS50 は、オーストラリア最大の養豚業者から抽出原料となるブタの皮・臓器などを調達しており、配合飼料の製造も飼料となる穀物の生産から食肉加工に至るまで、一貫してグループ企業内で行われているため、トレーサビリティが明確です。

《医薬品レベルの製造・品質管理》

安全性を十分に検証した原料を、バイオコープ・ニュージーランド社による医薬品バルクと同等の製造管理と品質管理によって、高い品質を維持しています。